

第12期短期講座「日本伝統芸能と音楽の世界」:北見先生の第1回講義レポート

福原 寛

みなさん、こんにちは！今回は、先日開催された～激動の時代を駆け抜けて～「日本伝統芸能と音楽の世界」第1回についてレポートいたします。

第1回の講義では、大阪音楽大学講師(音楽学)北見真智子先生を講師に迎え、「概観・日本の芸能と音楽」についての第1回講義が行われました。参加者の皆さんは、古代の原始音楽から歴史の変遷、そして芸能・楽器まで、日本の伝統芸能の多様性に触れながら、その歴史や文化的な背景について学びました。



講義では、日本の芸能の歴史を紐解きながら、様々な時代における音楽と楽器の進化や変遷について詳しく解説されました。参加者たちは、雅楽から能楽、歌舞伎、そして近世の演劇や音楽まで、日本の芸能の多彩な世界に触れながら、その魅力に引き込まれていました。

特に興味深かったのは、楽器の歴史に関する部分です。北見先生は、雅楽や能楽で使われる伝統的な楽器から、現代にまで伝わって使われる楽器まで、その音色や役割の違いについて熱く語って下さいました。参加者の皆さんも、実際に短いビデオを見ながら、その形や音色を味わうことができました。

このように、北見先生の講義は、日本の伝統芸能と音楽の奥深さに触れる素晴らしい機会となりました。次回の講義では、さらに深く芸能の世界に迫る内容を予定されていますので、楽しみに！

それでは、次回の講義でお会いしましょう